

秋ギク「神馬」の点滴かん水施肥栽培 における施肥法

園芸研究所

1 背景、目的

施設秋ギク栽培では、施肥量が節減でき、かん水や施肥にかかる労働時間を削減できる点滴かん水施肥システムの導入が進んでいます。しかし、この栽培における施肥管理は、資材メーカー等の情報をもとに個別農家が独自に行っており、技術的に確立されていません。

そこで、秋ギク品種「神馬」の1～2月出し栽培において生育ステージごとの施肥管理により、窒素施用量を削減でき、品質向上が図れる施肥法を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 秋ギク「神馬」では、1日1回の液肥施用により、窒素施用量を2/3に削減しても慣行と同等の切り花長、切り花重が得られます。
- 2) 定植5日後から消灯期に窒素を多く施用すると、切り花長、切り花重が優れ、発蕾後から開花にかけて窒素を多く施用すると、上位葉の葉面積が増大し、切り花品質が良くなります。
- 3) 1日・1株当たりの適正窒素施用量は定植4日後から消灯10日前が5.3mg、消灯10日前から発蕾が2.6mg、発蕾から開花が5.5mgです。この方法で施肥管理を行うと、慣行に比べて切り花長、切り花重、上位葉のボリュームおよび草姿バランスが良くなります。

3 主要なデータなど



写真1 施設秋ギクの栽培風景と点滴かん水施肥装置（部分）

表1 点滴かん水施肥栽培における施肥量と開花日、切り花品質

施用窒素 量の合計	開花 日	切花 長	葉数	切花 重
kg/a	月/日	cm	枚	g
1.5	1/22	93	52	62
2.0	1/20	98	52	76
3.0	1/20	102	52	77
(対照)慣行施肥 3.0	1/21	96	51	68

注) 品種は「神馬」。施肥は、点滴かん水が毎日1回、0.8L/m²の養液(OK-F-10)、慣行が基肥、追肥を花2号とヨリリを施用。試験圃場は砂壤土、肥沃度は中程度。定植は平成12年10月3日、消灯11月18日。

表2 生育ステージごとの窒素施用量の違いと開花日、切り花品質

定植4日後～ 消灯10日前 (34日間)	消灯10日前～ 発蕾 (35日間)	発蕾～ 開花 (33日間)	開花 日	切花 長	切花 重	舌状 花数	上位7葉 葉面積
mg/日/株	mg/日/株	mg/日/株	月/日	cm	g	枚	cm ²
5.9	1.4	6.1	2/8	95	79	218	107
5.3	2.6	5.5	2/6	93	80	233	102
4.8	3.5	5.0	2/7	90	76	235	95
4.4	4.4	4.4	2/8	89	75	235	94
(対照)慣行施肥 3.0kgN/a			2/8	89	71	236	80

注) 窒素施用は、各区2.0kg/aとし、生育期間を生育ステージで3分割して施用